

6/2021



令和3年度第1回昇格・昇段試験課題発表

(心動) 神疲。守眞志滿。逐物意移。堅持雅操。 好爵自縻。 都邑 (華夏。)



守真志 満

(真を守れば志は満つ)

される。 人道の誠を守っていれば心は満た

#### 解 説

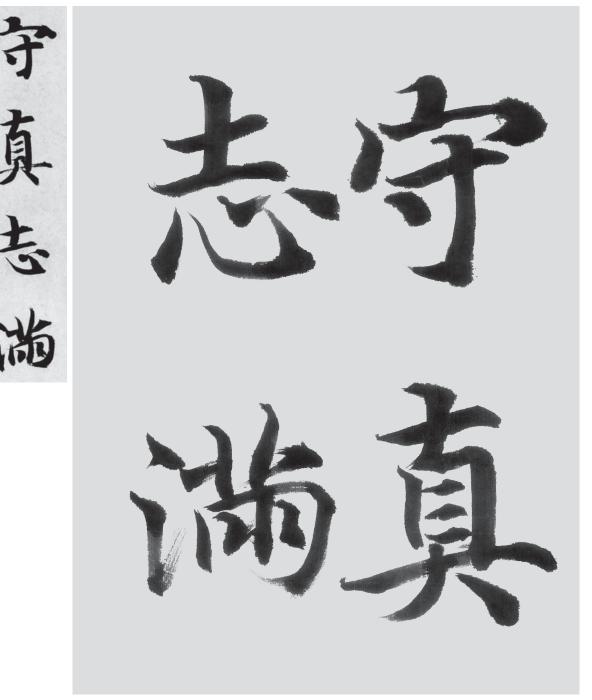
しましょう。 活かし、筆圧の軽重により太細を表現 活躍することが求められます。鋒先を 太目の線を活かすには、鋒が柔軟に

【用具·用材】

筆=和筆・羊毛三号

墨=和墨 紙=手漉半紙

(習い方は24ページ)



『真草千字文』 智永(隋代·生没年未詳)

守真志 満

(真を守れば志は満つ)

人は、その志は円満にして栄達する。 人の人たる道の誠を知ってこれを守る

〈解説〉

○鋒を豊かに駆使しましょう。

○墨が濃過ぎると鋒の開閉が困難です。

どの起筆も鋒先からです。

○収筆も鋒先が最後に紙を離れるよう

に引きつけて離し、次画の起筆に続

けましょう。

【用具·用材】

筆=和筆・羊毛三号

紙=手漉半紙

墨=和墨

(習い方は24ページ)

# 「自言書」「クツネを書きなさい。「自言」)漢字半紙(6級~10級=月例課題)

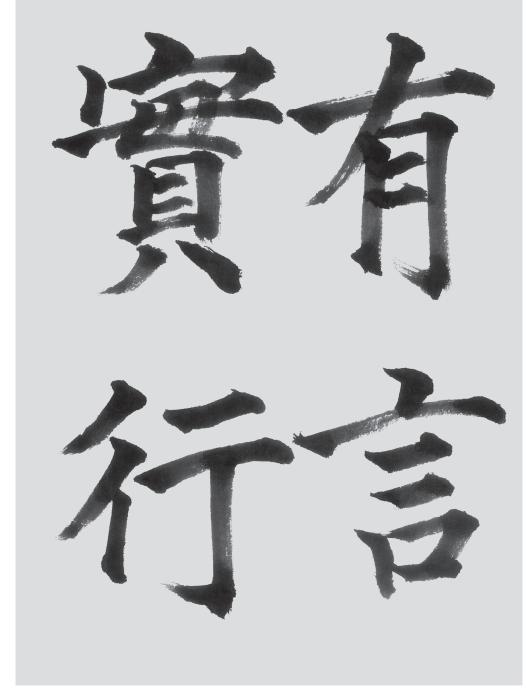
「**有言實行**」の四字を書きなさい。「**有言**」または 「實行」の二字だけを書いての提出も可。

永井香樹書

(読み) 有言

ー 實ジ **行**っ 有言實

行



#### (解説)

○楷書は三過折(起筆・送筆・収筆)

に留意しましょう。

○短い線も三過折です。送筆を意識し

ましょう。

○転折は二画でしっかりと書く。

○撥ねは9度に近い位に広く撥ねる。

# 【用具·用材】

筆=和筆・羊毛三号

紙=手漉半紙

墨=和墨

(習い方は25ページ)

# かな半紙 専門部 (五段~準初段=昇段課題)

左の図版より「佐せる乎見てよめる」から「毛の於もひ裳なし」までの五行を、半紙を縦に使用して原寸以上に体裁よく臨書しなさい。 ※原寸には拘らなくてよい。

閑盤あ連と花をし三れ盤毛の於もひ裳なし 使せる乎見てよめる さきの於本い万うち支三 東し布礼盤よ者悲はおいぬし

『関戸本古今集』

#### \_

(原寸)

(読み)

「そのからのかざか」

「そのからのかざか」

「そのからのかざか」

「そのからのかざか」

「そのからのかざか」

「そのからのかざか」

「させるを見てよめる

させるを見てよめる

でから(おはか)おばいまっちがみ

「藤原良房)

年ふればよはひは老いぬし

かはあれど花をし見れば物

思ひもなし

#### 〈大 意〉

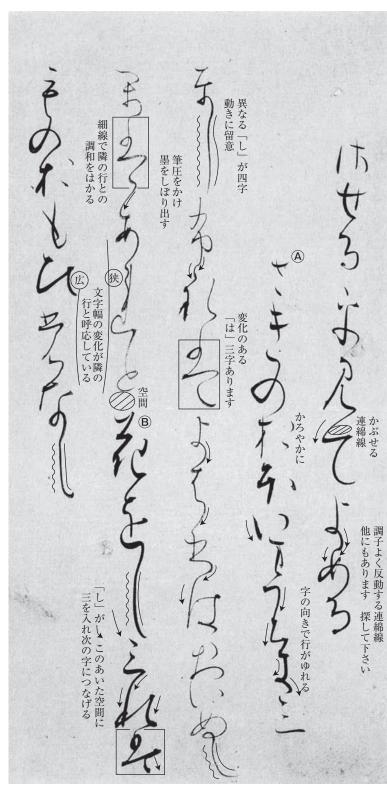
長い年月の後にここまできたのだから、私はもはや老人である。けれども、今が満開の花のようなわが娘さえ見ていれば、すべての悩みは消え失せる。

巻第一 春歌上 52)

(古今和歌集

# 課題解説(かな半紙五段~準初段)

この詞書が前にあります「そめどの、きさきのおまへに花がめにさくらの花を」



Aより理解する為に た。参考にして下 一部を拡大しまし

> 鋒先を使い 切れ味よく 面・裏面あ 事です らゆる面を 俯仰をする すとは筆の (筆の表

> > みのある線を書き

参考までに

ます。

筆の面の返しで厚 筆の腹まで使った

筆の面を返

用います) げます (上下動)。 この時紙面に筆を 弾力を使いひきあ 押しつけずに筆の

次の字へ

かろやかに

筆の全体像です 腹 腰

B 花で墨つぎをした時、墨をだし 筆圧の加減・墨含みが大切です。 を除いてから書きます。 すぎぬ様に反故紙等で余分な墨

#### 解 説

そして多方向に動くしなや のびやかな細線の対比® ます。厚みのある太い線と、 字の傾きに合わせ行がゆれ がりやがて閉じています。 まず課題をよく観察しま さんはどのように感じまし 立体感に驚かされます。皆 調和等からダイナミックな まれた余白と隣りの行との 連綿線の又、短い行で生 グイグイ埋めこむリズムの かな連綿線や筆の面を返し めに始まり、途中大きく広 しょう。行頭が比較的小さ たか。その気持ちを大切に 一字ずつはほぼ端正ですが

(八尋光華)

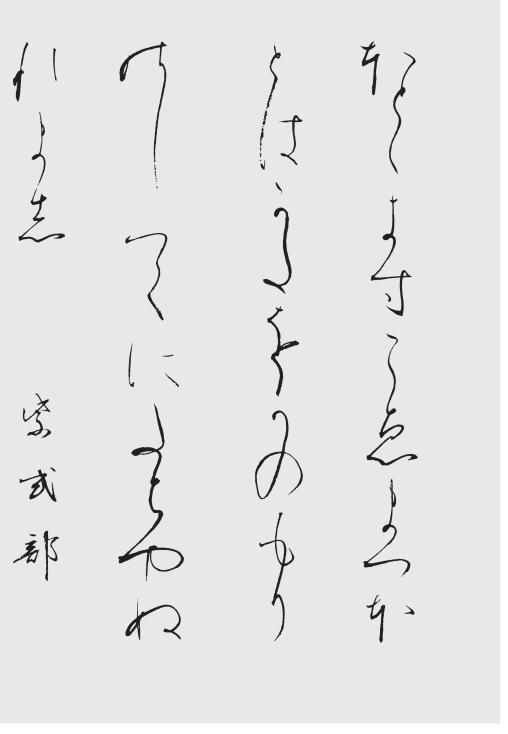
臨書して下さい。

# 【用具・用材】

紙=かな用雁皮 墨=かな用和墨 筆=かな用小筆

# かな半紙 (1級=昇段課題、2級~5級=月例課題)

左の図版の「本と、支寸」から「多ちやぬれ末志 紫式部」までを半紙を縱に使用して体裁よく臨書しなさい。



#### (読み)

は 時島声待つほどは 時島声待つほどは

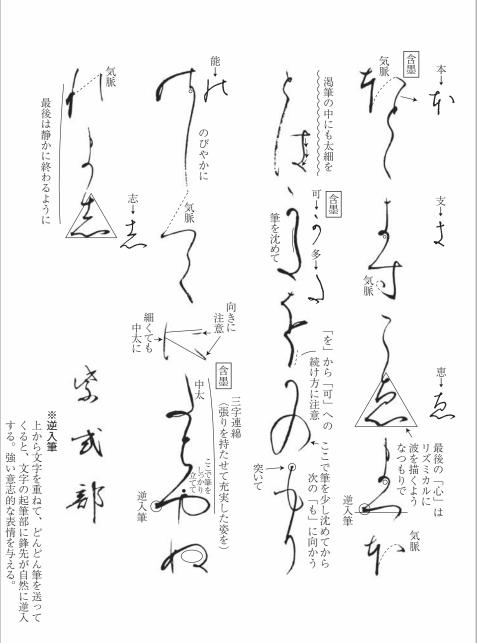
紫式部

(大意)

いて濡れよう。なの朝露の雫に立って森の朝露の雫に立って

巻第三 夏歌191 割191

# 課題解説(かな半紙1級~5級)



### ポイント

### ○筆の持ち方

まう人は筆を強く握りすぎです) 筆がスムーズです。(書いているうちに指が疲れてし クスした状態で筆を持ちましょう。筆も軽く持つと運 要があります。腕や肩に余計な力を入れずに、リラッ こののびやかさを表現するためには筆が自由に動く必

# ○渇筆部分の筆の扱い

筆の毛に含まれている墨がおりてきます。それを待ち と一字の中にも太細があります。それを表現するため 「とは」「つくに」は渇筆になっていますが、よく見る ながらになるので、ゆっくり運筆ということです。 にはゆっくり運筆することが大切です。筆を沈めると、

#### 出典

梅雪かな帖 中

#### 〈解説〉

下さい。 でなく、潤渇の美しさ、線質の魅力やリズム感 しさを再現させることを念頭において臨書して 全体を統一する美しさを感じて下さい。その美 今月も和歌一首を四行書きに臨書します。 まずはよく見て下さい。文字の形を追うだけ

(甲谷景子)

〈参考臨書〉

(甲谷景子臨)

4 宏式

# 【用具・用材】

墨=かな用和墨 筆=かな用小筆 紙=かな用雁皮

# 〈出典〉梅雪かな帖(上)

できているでしょうか。

先月説明した筆の片付けは、上手に

紙=かな用半紙 =かな用和墨 (用具・用材)

さきゆめみし

ゑひもせすん けふこえてあ

ゐのおくやま

細字用の筆は、鋒先が揃っていて鋭く、弾力があってまとまりのよいもの、 毛質のよいもの、鋒が痩せていないものを選ぶとよいでしょう。鋒が非常に のを選ぶとよいでしょう。鋒が非常に にません。 しません。 しません。 た端の命毛は、使用するうちに傷ん でなくなりますが、かなの鋭く細い起 でなくなりますが、かなの鋭く細い起 は、命毛がなくてはなりません。命毛

先端の命毛は、使用するうちに傷んでなくなりますが、かなの鋭く細い起い、命毛がなくてはなりません。命毛は、命毛がなくてはなりません。命毛がなくなった時、墨で筆が固まって使える鋒が短くなった時、墨で筆が固まって使える鋒が短くなった時、事にはそれぞれの書き味がありますから、数種類を試して自分に合ったものを見つけて下さい。

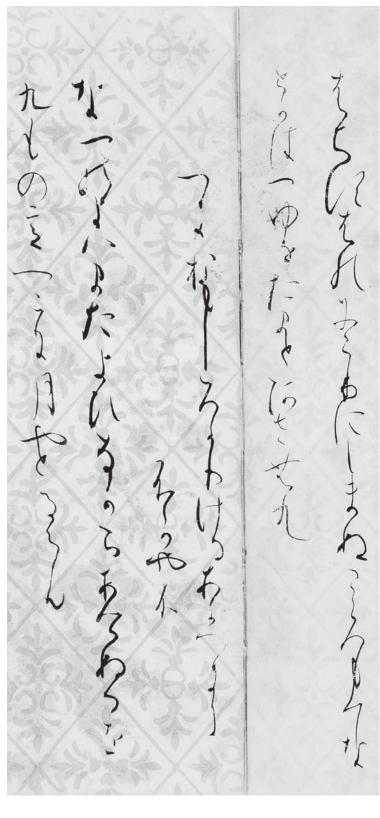
(川島史子)

(習い方は25ページ)

# 専門部(会友~準会友=月例課題、八段~準六段=昇格・昇段課題)

左の『元永本古今和歌集』より一行目「者ち須者能」から「月やとるらん」までの六行を半紙を縦にして臨書しなさい。

※原寸には拘らなくてよい。



と可はつゆをた末と阿さ無九 者ち須者能尓こ利にしまぬこ、ろもてな

つ支於もしろ可利けるあ可つ支尔 不可や不

九もの意つこ尓月やとるらん なつ能よ八末たよひ奈可らあ介ぬるを

(原寸)

#### (読み)

るを 蓮葉の濁りに染まぬ心もて 夏の夜はまだ宵ながら明けぬ 月おもしろかりける暁に などかは露を玉とあざむく ふかやぶ(清原深養父)

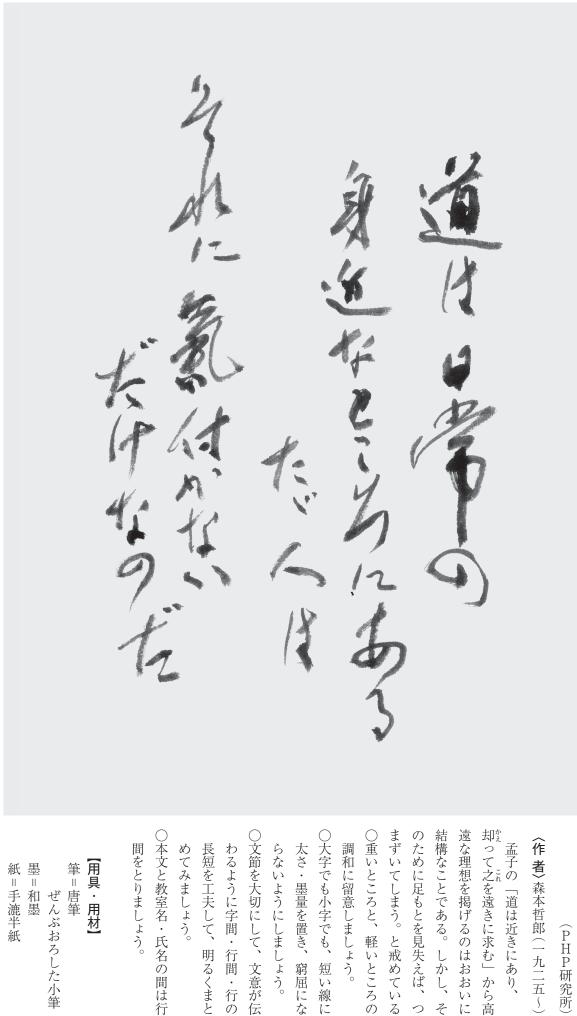
雲のいづこに月やどるらん

#### 〈大 意〉

- ・水中から生じて、その濁っ また、葉の上の露を玉だと いって人を欺くのか。 な蓮の葉の心なのに、何で た水にも染まらないきれい
- ・夏の夜はまだ宵の口だと (古今和歌集 巻第三 夏歌16·16) 明るくなってしまったが、西 思っていたら、そのまま空が 宿を借りているのだろうか。 に沈む暇がなく、どの雲に



永 井 香 樹 書



# (出典)「この言葉」

(PHP研究所)

(作者)森本哲郎(一九二五~)

却って之を遠きに求む」から高 まずいてしまう。と戒めている。 のために足もとを見失えば、つ 結構なことである。しかし、そ 遠な理想を掲げるのはおおいに ○重いところと、軽いところの 孟子の「道は近きにあり、 調和に留意しましょう。

○大字でも小字でも、短い線に ○文節を大切にして、文意が伝 めてみましょう。 長短を工夫して、明るくまと らないようにしましょう。 わるように字間・行間・行の 太さ・墨量を置き、窮屈にな

# 【用具·用材】

間をとりましょう。

筆=唐筆

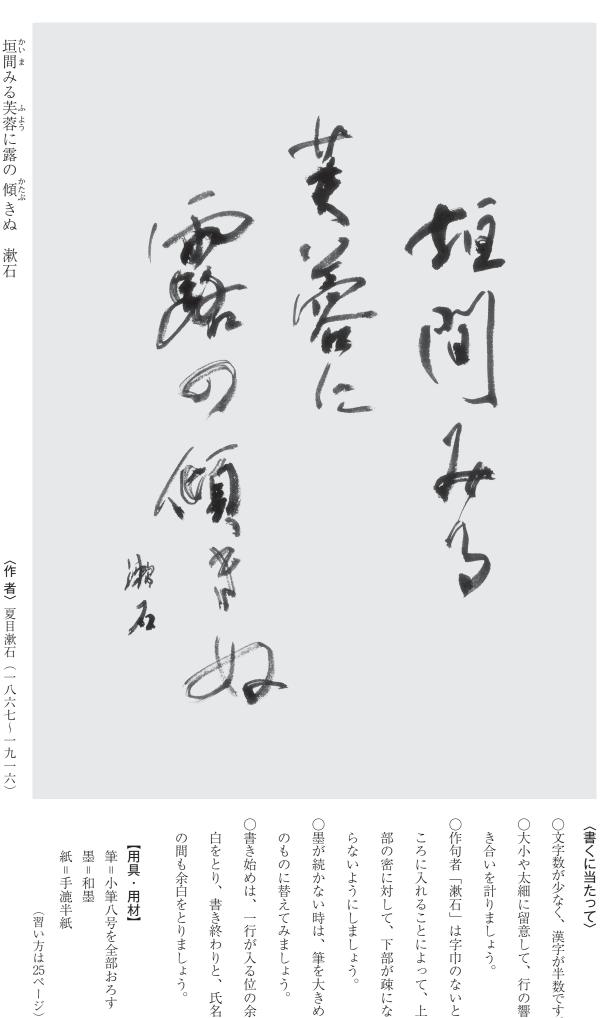
墨=和墨 ぜんぶおろした小筆

紙=手漉半紙

(習い方は25ページ)

道は日常の身近なところにある。たゞ人はそれに氣付かないだけなのだ

香 樹 書



**〈作者〉**夏目漱石(一八六七~一九一六)

漱石

# 〈書くに当たって〉

○文字数が少なく、漢字が半数です。

き合いを計りましょう。

○作句者「漱石」は字巾のないと

ころに入れることによって、上

らないようにしましょう。

部の密に対して、下部が疎にな

○墨が続かない時は、筆を大きめ

○書き始めは、一行が入る位の余

のものに替えてみましょう。

白をとり、書き終わりと、氏名

の間も余白をとりましょう。

# 【用具·用材】

墨=和墨 筆=小筆八号を全部おろす

紙=手漉半紙

(習い方は25ページ)



莫上髙樓看柳色 春愁多在暮山中

〈読 み〉髙樓に上りて柳色を看る莫れ、春愁多く暮山の中に在り 《作者》趙執信(一六六二~一七四四)

〈大 意〉たかどのに登って柳色を眺めない方がよい。春時の憂愁は多くあの夕暮の山にこめられているのだから。

漢字条幅(1級=昇段課題、2級~10級=月例課題) 参考手本

(用紙 画仙紙半折・たて13m×よこ35m)

(解説は26ページ)



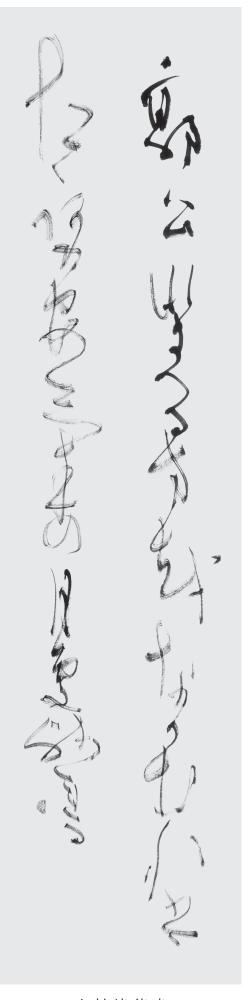
小久保嶺石書

呉地桑葉緑

〈大意〉呉の地では桑の葉は緑に色づいている。 〈読み〉呉地 桑葉は緑に 〈作者〉李白(七〇一~七六二)

(解説は26ページ)

林田香濤書



郭公那支つる方越な可むれ盤 たゝ阿利安気の月處残連る

〈**大 意**〉いまほととぎすが鳴いたぞと、声のした方角の空をながめやると、もはやその姿はなく、夜明けの空には、ただ有明の月だけが残っている。〈**読 み**〉ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる 〈**出 典**〉百人一首81 後徳大寺左大臣

かな条幅 (1級=昇段課題、2級~10級=月例課題) 参考手本 ※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙 かな用画仙紙半折・たて13㎝×よこ35㎝)

(解説は26ページ)

(解説は26ページ)

《読み》時鳥鳴くや湖水のささ濁り本と、支須那久也湖水のさ、尓許り

〈大 意〉一面かすかに濁っている琵琶湖の湖上を時鳥が一声鋭い鳴き声で渡った。

〈作者〉内藤丈草(一六六二~一七〇四)

内堀信嶺書

中村清徳書



村の田植もすみて夕月夜若者たちの髙聲きこゆ(出典)「現代

〈出典〉「現代歌集」筑摩書房

《作者》岡 麓(一八七七~一九五一)

〈**大 意**〉村里の田植えも終わって安堵感に包まれたのであろうか。既に夕月夜が出て若者たちの高らかな声も聞こえてくる。

もっとも強調したいところ

(用紙 画仙紙半折・たて 13㎝×よこ35㎝)

#### 解説

○作品の構成として半切二行書き形式。 ○内容素材が「田植・高聲きこゆ」を ポイントと考えて、やや強調してみた。 ○冒頭の「一村の」は含墨を柔らかに して、「若者」とバランスを考える。 ○後半は前半と比較して重めにして作

筆=羊毫中鋒 【用具·用材】

紙=中国画仙墨=和墨(松煙墨)

※新和様条幅は新和様半紙の有段者対象。条幅初出品の場合は、準初段からの出品となります。

#### 〈清書用紙〉

#### 実用書 (随意課題)

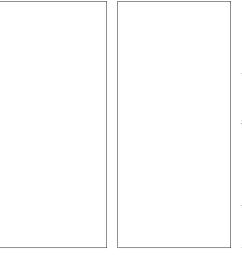
は神料

柳香真

御香奠

氏 名

教室名



切りとって提出してください(コピーも可

○出品用紙は、左側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。

洋紙に書くことをここでは原則とします。



神佛新

御佛前

月 別 出品券 を貼る

・月別出品券(77ページ)とバーコード 出品券(段級欄に「実用」と記入)を左 下に貼付してください。



お花料

お花料

佐藤友理著「美しい手紙」(三多軒発行)より

# 今月の競書課題

専門部 会友~準会友=月例課題 八段~準六段=昇格・昇段課題

# 今月の出品期間5月3日月~6月7日月必着

#### 漢 字 半 紙

左の語句を、半紙を縦使用、自運縦書き。(書体自由

#### 怡 然 眄 庭 柯

怡 的 時 產

睡起無一事、 緑陰微缺處、 最得南颸多。 怡然眄庭柯

⟨出典⟩『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋の汪藻 五言絶句

〈読み〉 怡然として庭柯を眄る。

〈大意〉楽しみに庭の枝を見る。

#### か な 半 紙

# 『元永本古今和歌集』

課題は11ページに掲載しています。

# 新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。 (漢字・かなの書き換え自由、 歴史的仮名遣いは尊重

あかつきの天の藤原ほの見えてわか紫のたな雲立つも

〈大意〉明け方、奈良の藤原京跡方面を眺めると、 色の雲が一面に広がっていた。 遥か遠くほのかに見えて、 若紫

〈**作者**〉与謝野晶子(一八七八~一九四二)

7月号課題予告									
新和様条幅	かな条幅	漢字条幅	新和様半紙	かな半紙	漢字半紙				
印旛沼津々の荻原風ふけば見ゆるかぎりが皆そよぐなり	いさり火の昔の光ほの見えて蘆屋の里に飛ぶ螢かな	觀天地生物氣象 學聖賢克己功夫	山あひは霧の世となり大空は琥珀に透きてあてなるター	古筆臨書課題	緑陰微缺處 (鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋				
(北原白秋)	(新古今和歌集)		(与謝野晶子)	(元永本古今和歌集)	宋の汪藻 五言絶句)				

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

#### 漢字 条 幅

左の語句を、 (書体自由) 画仙紙半折 (136m× 35m) を縦使用、 自運縦書き

拈

花

微

笑

称

佛

北花 淡笑 **教酒當歌我** 

對 酒 當 歌 我 亦 仙

拈花微

笑人称仏

对酒当歌我亦仙

て微笑んだ人は仏と称す(拈花微笑)。酒を前にしたら大いに歌うべきだと〈大意〉お釈迦様が一輪の花を手にして黙ってスッと掲げた時、その意味を理解し **〈読み〉花を拈りて微笑するの人を佛と称す。酒に對しては當に歌ふべし我も亦仙なり。** いう自分は行者である。

出典 『鳴鶴作品草稿集 Ⅰ』

かな 条 幅

左の和歌を、**画仙紙半折**(36m×35m)**を縦使用**、 (変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

自運縦書き。

春雨の降りそめしより青柳の糸の緑ぞ色まさりける

〈出典〉新古今和歌集 巻第一 春歌上 六八 凡河内躬恒 〈大意〉春雨が降り始めると、青々とした糸のような柳の葉の緑が、 一層鮮やかに見えた。

新和様条幅

左の短歌を、**画仙紙半折** (36㎝×35㎝) **を縦使用、自運縦書き**。 (漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

観音の甍ながめて帰るころ早や夕明る田螺がころころ

〈**大意**〉 観音様の屋根瓦を眺めながら帰る頃、 もうすでに日が沈み空はほのかに明 〈作者〉 北原白秋(一八八五~一九四二) るさが残っている程度である。近くには田螺が自然の中で転がっている。

参考図書としては、現代字体字典(講談社)、五體字類(西東書房)、大字典(講談社)、 るべきである。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。 夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避け **自運**=与えられた課題語句を課題とし、自運作品として筆墨紙、墨の磨り工合を工 古典かな字鑑(書藝文化新社)、広辞苑(岩波書店)、古語辞典(旺文社)などを見たい。

滅度多寶佛~修習是難得の二百二十字を清書して出品。

國寶 法隆寺伝来細字法華經(擴大率二倍)

如日月光明 於如來滅後 名字及言辭 能持是經者 亦見亦供養 滅度多寶佛 能除諸幽瞑 知佛所說經 樂說無窮盡 不久亦當得 亦令得歡喜 切皆歡喜 斯人行世間 因緣及次第 能於是經者 如風於空中 諸佛坐道場 十方現在佛 隨義如實說 能滅衆生闇 并過去未來 一切無障閡 於諸法之義 所得秘要法

能くこの経を持つ者は 久しからずして亦、当に得べし。能くこの経を持つ者は 諸法の義と亦は見、亦は供養し 亦は歓喜することを得せしめん。諸仏の、道場に坐して 得たまえる所の秘要の法を滅度せる多宝仏とをして 一切皆歓喜せしめ 十方の現在の仏と 并びに過去と未来とのをも

如来の滅後において 仏の所説の経の 因縁と及び次第とを知りて

能く諸の幽冥を除くが如く

斯の人は世間に行じて 能く衆生の闇を滅し

められると思います。

伸びやかで冴えた線でまと

起筆に留意されると

義に随って実の如く説かば

様も、

極めて風韻を感じる次第で

ある。浄写される会員の皆

名字と及び言辞とにおいて 楽説して窮尽無きこと 風の空中において 一切障礙無きが如くならん。

日月の光明の

智

5 4 3 2 1 筆、 この二倍の拡大の文字を見 ムよくまとめられている。 写も特段に精熟してのリズ 留意するより、運筆を速や みると、確かに一点一画に 本に持ち帰る為に李元恵が 寺に献納したのを思い起こ 浄写して、その一巻を法隆 ンバーで分担執筆し、二巻 の一環として十名ほどのメ 業 (五十萬巻冩經達成記念) 經の復元を本会の記念事 やかさは熟達の写経であり 解出来る。冴えた線の伸び を表出しているのがよく理 紙面に喰い込んで線の冴え て感ずることは、 かに流れるような点画で浄 行意を感ずるが、浄写して 急ぎ浄写されたとのことで している。細字としての日 法隆寺に伝来する細字法蕐 収筆などは鋒先がよく 横画の起

《解説》 小久保嶺石

図版中文字で、判然としていないところは、経典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。 全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。 清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

妙法蓮華經囑累品第二十二 爾時釋迦牟尼佛。從法座起。 於我滅度後 教無量菩薩 應受持斯經 畢竟住 一乘 是故有智者 是人於佛道 現大神力。 決定無有疑 聞此功德利

右手摩。 於無量。 (阿耨多羅三藐三菩提法。) 百千萬億。 無量菩薩摩訶薩頂。 阿僧祇劫。 而作是言。 脩習是難得。 我 以

> 無量の菩薩をして 応にこの経を受持すべし この人は仏道において 決定して疑い有ること無からん」と。 **畢竟して一乗に住せしめん。この故に有智の者は この功徳の利を聞きているます**

無量百千万億阿僧祇劫において、この得難き(阿耨多羅三藐三菩提の法を)修習せり。右の手を以って無量の菩薩・摩訶薩の頂を摩でて、この言を作したもう「われは 妙法蓮華経嘱累品第二十二 わが滅度の後において その時、 釈迦牟尼仏は法座より起ちて、 大神力を現わし

12 10 7

A (3-1) (1-1) (2-13)(3-16)(4-5)(2-16)(1-8)

(8-20) (4-20) (3-20) (11-6) (6-17) (5-20) (12-11)**介**(9-7) (11-7) (5-4) (6-10) (12-10)(7-18)

### 不 篆刻研究室

▼規定…左の語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

#### 歓 I 笑 盡 娯

(読み)

歓笑娯を盡くす

〈大意〉よろこび笑い、楽しみの限りを尽くす。

▼随意…好きな語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内) ○巻末の出品要項をよく読んでご出品ください。 ○作品は「半紙横½」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出

#### 字 書

▼規定…左の語を創作しなさい。(書体自由)

〈読み〉ホ

〈意味〉はたけ。農事。農夫。

(おすすめの用具・用材)

53cm

圃

鉛筆で記入のこと。 作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を 萬象 50枚 (夾宣)

▼随意…左の語を創作しなさい。(書体自由 仮名の成り立ち「比」を考えて創作すること。 〈おすすめの用具・用材〉

特選一字書 10枚(夾宣) 字書 10枚 (夾宣)

←月別出品券

記入のこと。 作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で

○バーコードは、段級欄に「一字書規定○段(級)」または「一字書随意」 書いて貼付してください。 (規定の方は段級を忘れずに)

○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。 ○落款は印のみか一字に雅印ぐらいで。

#### 課 題 説 解

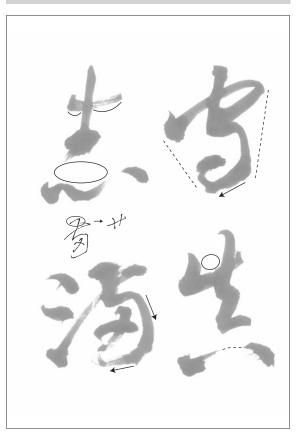
漢字半紙 五段~準初段(真草千字文)

#### 5月31日(月)~6月7日(月)必着 漢字半紙 1級~5級(真草千字文)

今月の出品期間

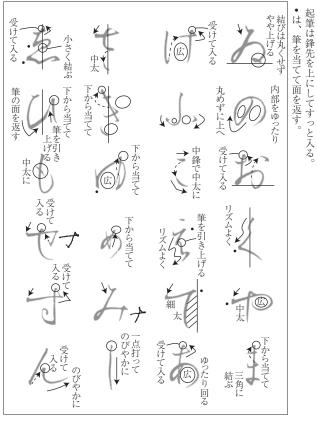


(永井香樹)



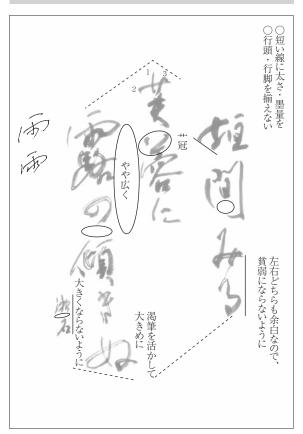
(永井香樹)

#### かな半紙 6級~10級



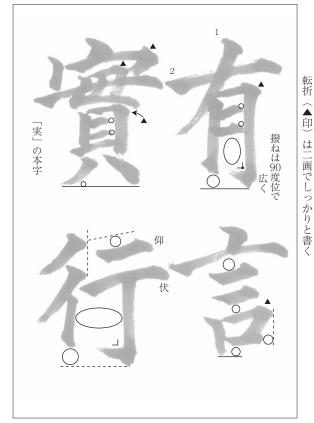
(川島史子)

#### 新和様半紙 1級~10級



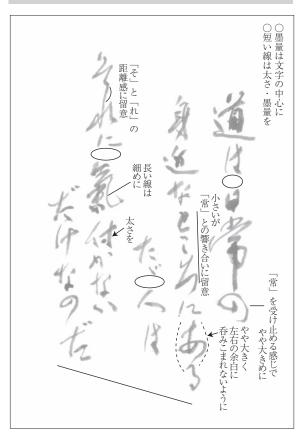
(永井香樹)

#### 漢字半紙 6級~10級



(永井香樹)

#### 新和様半紙 五段~準初段



(永井香樹)

### 漢字条幅 五段~準初段

(林田香濤)

るい空気を出せるようにしたい。 である。しなやかな細線を多く用いて、明 に、和らいだ雰囲気の表現を目指したもの ○筆の弾力を利かせて、張りのある曲線を 追求しよう。 今回は螺線回転する曲線の運筆を主体

> ※弱く貧弱にならないように。 ○回転するリズムによる運筆を大切にしよう。

# (用具・用材)

紙=中国画仙紙 筆=和筆・羊毫長鋒 墨=和墨・油煙墨



### 漢字条幅 1級~10級

### (小久保嶺石)

○五文字作品としての体裁を考え、構成の 留意する。東晋王羲之や黄庭堅、犀水千 字文などを参考にする。 上で文字の字形・墨色・バランスなどに

地…千字文の天地玄黄の地字を参照、ここ 呉…千字文の昃字に同類の形。口を中央に 置いて下の八を左右に分割する。 で横広にし上下をあける。

桑…桑の異体字。渇筆を用いて「十」字を 上下左右バランスよく表現。やや小さ

十四字のの

ながら強めに 葉より小さめ

葉…草冠と世と木とのつり合いを考えて 緑…糸偏を狭く、旁をやや広めに。上の葉

品としてバランスを考えて仕上げたい。

字と同じく強さが大切。

作品の中で一番大きく強く表現する。

○落款の位置と落款印に留意しながら、作 (用具・用材)

紙=中国画仙紙 筆=唐筆·羊毫筆 墨=和墨・油煙墨

# かな条幅 五段~準初段

(中村清徳

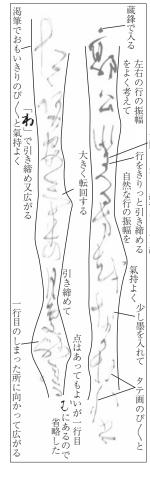
ます。二行目渇筆で大らかに書き進めま 線を書くことで作品を引締めることが出来 く、墨色の変化を留意しつゝ書き進めま くなり過ぎぬよう自然な行の振幅を気持よ しょう。タテ画はしっかりと紙背にとおる 書き出しの郭公を漢字で書きました。重

> しょう。結句「月處」で入墨、全体をまと めましょう。

〈用具・用材〉

紙=和画箋 筆=かな条幅用筆 墨=和墨

タテ画しつかりと紙背にとおる線を



### かな条幅 1級~10級

(内堀信嶺

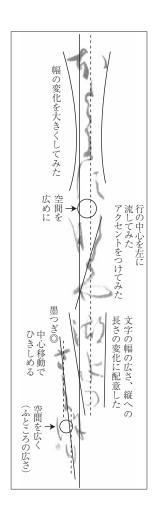
○「湖水の」までは中心移動せず、「ささ濁 ○文字の大小の変化、線の太細の変化は大 ○中央部の「行くや」で左に流しながら強 調していますが、太く重くならないよう り」で次第に中央に移行していきます。 に配慮した。

切ですが、全体のバランスに配意した。

(用具・用材)

墨=和墨

紙=加工画仙 筆=かな条幅用筆



に、「百人一首」を編んだ藤原定家(一一

平安から鎌倉期にかけての著名な人物

六二~一二四一)

が挙げられます。孤高を

、歌壇に疲れたときになぐさみに漢道徳観が強く潔癖症であるとされた

かられる。 でもない。 ではない。 ではない。 のもない。 のもない。 藤原定家筆 [土佐田記]

籍を読み、これを書写することを好んだと

定家は、

あ満利飛とひの日のいぬ能時尔(以下略)乎とこ毛春といふ日記といふ物/を、む奈も志て心みむとてする/な利 楚れのとし、は数の者つ可/

からからかられているころ

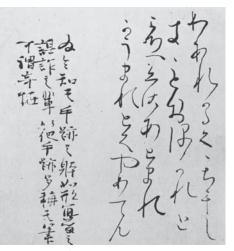
可れ/世末しや

「れ/世末しやの末つのちと世尓美末し可は/と保久可那し支わた/美しひとの末つのちと世尓美末し可は/と保久可那し支わん茶れし毛可へら/ぬ无の乎わ可やとに/こ末つのある乎みん末れし毛可へら/ぬ

つ久佐数と末れ/可う末れと久や利て无わ数れ可多久、ち乎し/支ことお保可れと/衣

(以下略

ています。



定家が紀貫之の筆蹟を臨書した部分

す。さて、

どれほど貫之の真面目を伝えて

いるかは定家のみが知るところですが、そ

書きぶりは定家の個性を如何なく見せ

名の成立を考える上で大変貴重な資料で

日、他に貫之の筆蹟が現存しないので、

仮 今

蹟を臨書した部分が現存しています。 るように見えますが、線はよく練れて力強 きぶりが特徴で、一見すると楽に書いてい 風は個性的にして奇癖の趣が強く、「落字 膨大な量に達し、土佐日記などが一部現存 いいわゆる定家様の筆法が形づくられます。 せています。筆圧の強弱を極端に表した書 記』に記さしめている程の書風の違いを見 人をして〝鬼〟のような字であると『明月 無きを以って悪筆の一得と為す」、また本 言われています。定家の書写による典籍は また、 先に述べた定家の性格を表すように、 後代に大きな恩恵を与えました。 土佐日記の巻末には、 紀貫之の筆 書

版

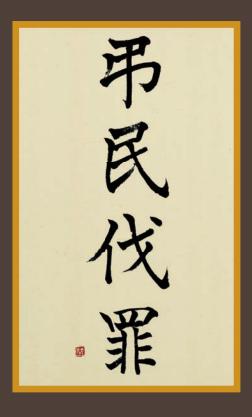
石橋犀水

楷書千字文より

# 段 漢字半紙 かな半紙 新和様半紙 漢字条幅 新和様条幅 細 字 篆 刻 一字・ 会 工一教室 氏

#### 作品募集 出品期間:2021年7月12日(月)~16日(金)

# 第43回毛筆・ペン・篆刻作品展全国千字文大会



#### 部門

『毛筆』幼年・小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般の部 『硬筆』幼年・小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般の部 『篆刻』一般の部のみ

展示期間

#### 2021年9月25日(土)~27日(月)

展示会場

日本書道藝術専門学校(第1会場) 東洋文化不二研修所(第2会場)

出品料	毛 筆			篆刻	硬筆
山田竹	各半紙	各条幅	全臨	<b>家</b> 炎リ	以丰
小・中学生	700円	_	_	_	500円
高校生	800円	1200円	2500円	_	600円
— 般	1200円	2000円	3000円	1200円	1200円

- ◆主 催 / 学校法人 日本書道藝術専門学校 公益財団法人 日本書道教育学会
- ◆後 援 / 文化庁・静岡県・静岡県教育委員会・伊東市・伊東市教育委員会 伊東市文化協会・静岡新聞社・静岡放送・伊豆新聞本社

※出品要項は本誌64ページをご覧ください。

〈日本書道藝術専門学校 千字文大会事務局〉

〒414-0051 伊東市吉田1022 TEL(0557)45-4194 FAX(0557)45-3256 http://www.nihonshodou.ac.jp/

#### ~春から学んで、師範取得をめざす!~

書道・ペン・篆刻の教室

#### 4月入学生募集中

### ლ書學院

全国4校 ■ 神田・大阪・川奈・九州

#### 見学随時受付中! 無料体験入学実施中!

古典臨書や写経、作品研究を中心とした特設科コース、指導者養成セミナー等、多数の講座をご用意しております。※詳細は本誌68頁をご覧ください。

公益財団法人 日本書道教育学会 音学院 http://www.nihonshodou.or.jp/

神田書学院(03) 3265-5491 大阪書学院(06) 6599-9550 川奈書学院(0557) 45-3265 九州書学院(092) 715-0850